

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 准教授

氏名

小野澤裕也

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

1年次に生理学の基礎を学び、生体に関する基礎生理学の知識を定着させる。

2年次に基礎的な生理学に関する知識と、実際の臨床検査の基本的な結びつきを理解し、実習を通して、比較的取得しやすい基本的な検査手技を習得する。

3年次に1年次に学んだ基礎生理学の教師として何に責任を負っているかを明確にし、自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
生理学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	1	100
生理学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	1	100
臨床生理学Ⅰ	臨床検査技術学科	必修	3	90
臨床生理学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	90
基礎教養科学演習	臨床検査技術学科	必修	1	100
基礎科学実験	臨床検査技術学科	必修	1	100
生理学実習	臨床検査技術学科	必修	2	90
臨床生理学実習	臨床検査技術学科	必修	3	90
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	90
総合臨床検査学Ⅱ	臨床検査技術学科	必修	3	90
総合臨床検査学Ⅲ	臨床検査技術学科	選択	4	90
科学者・研究者論	環境保健科学専攻（博士前期課程）		1	15

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

生理学を通じて得た知識から、さまざまな疾患への理解を深め、そのためにはどのような検査が必要なのか、正確な診断のためにはどのような技術が必要なのかを体感して知ること、臨床実習や国家試験に対する勉強への意識を高める。

実際に臨床の現場で活躍する臨床検査技師になるためには、国家試験取得および就職後にも学び続ける必要があることを知るとともに、医療者として社会に貢献できる職種を希望し、進学したことに自信を持たせ、継続的に努力することの重要性を理解させたい。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

1年次の基礎生理学を学ぶときから、その背景にある代表的な疾患についての原因や病態を解説し、今学んでいる内容がどのように臨床検査に活かされていくか体感しながら講義する。

2年次の生理学実習では、基礎的な技術であっても習得することが難しいことを知り、3年次以降の臨床生理学へのモチベーションを高める。

3年次の臨床生理学および実習では、実際の検査方法に加え、正常所見、異常所見を理解し、その異常所見を見出すためにどのような技術が必要なのか、検査の難しさと興味深さを並行して体験させる。3年次の臨床生理学2は対面試験となったため、集中的な学習機会を得させることができた。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義終了時にGoogleformを用いた知識確認試験を実施している。定期試験前にも繰り返し取り組めるようにすることで、復習にも活用できるようにしている。

(2) ICTの教育活用

有

重要な部分を繰り返しGoogleformを使用した試験形式で暗記できるように取り組んでいる。また講義動画を録画し、配信をしている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

スライドを簡潔にし、さらに必要な知識はスライドに自筆で書き込みながら講義を行なっている。学生がスライドを見るだけでなく、スライドを完成させていくような意識を持ってもらえるよう取り組んでいる。

(2) 学生の理解度の把握

B

理解が必要な部分については、講義後の課題で自身の言葉でまとめる練習をさせている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義後の試験を繰り返し行い、結果をすぐに確認できるようにしている。また解説も追記している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

基本的には講義後に質問に来る学生へ口頭で説明している。

(5) 双方向授業への工夫

B

いつでも質問して良いことを繰り返し伝えている。少しではあるが、メールでの質問が増えてきた印象がある。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

過去の出題形式を分析し、毎年講義内容を更新している。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

講義ペースを少し落として実施した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

定期試験の平均点が向上した。

（３）（２）を踏まえた次年度の取組

昨年以上に要点を絞った講義構成としたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

講義毎に行う知識確認試験が効果的であったので、さらに問題数を増やし時間を増やす。

（２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

講義毎に知識確認試験があるので、講義に集中するようになった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

参加している。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期の目標

1年生では高校の理科選択に関わらず将来的に必要な知識を定着させる講義を実践しする。

3年生では臨床検査技師として必要な心構えを理解させた上で、各論の知識技術を習得させる。

4年生の総合臨床検査学演習では、国家試験に全員が合格することを目標とする。

長期の目標

5年後には臨床検査技師国家試験合格率95%を目指す。